

樹医からのアドバイス (Vol.08)

～冬季の病害虫対策～冬にしかできないこと～

出雲市樹医センター

樹医 槇野 浩二郎

冬の間、落葉樹は葉を落とすことで樹体内の水分量を減らして凍らないよう防御し、常緑樹は光合成を抑制し代謝を抑えます。

このように活動を休止した期間を休眠期といいます。

カイガラムシ駆除はこの時期に！

カイガラムシはその名の通り殻をかぶった害虫で、普通の殺虫剤では効果が期待できません。休眠期にしかできない駆除方法として、マシン油乳剤を散布して窒息死滅させる方法があります。ただし、マツ類やツツジ類には葉が落ちるなどの症状が発生する場合がありますので注意が必要です。

また、この時期はカイガラムシを見つけやすいので、手やブラシで取り除くのも効果的です。

松くい虫防除樹幹注入はこの時期に！

松くい虫予防の一つに、薬剤を幹に注入する「樹幹注入」があります。樹脂（マツヤニ）の発生量が少ない休眠期でなければ、薬剤が幹の中へ浸透しません。また、薬剤が行き渡るのに約3か月かかるため、注入は11月以降、2月の終わりまでには行いましょう。松くい虫の原因とされるマツノザイセンチュウをマツノマダラカミキリが運んでくる5月以降にその効果を発揮します。

なお、庭マツの場合は下枝に薬が集中して枯れるなどの薬害が発生する場合がありますので、注入に関しては専門業者や樹医に相談されることをお勧めします。



樹幹注入